

くさび連結式のパネル枠工法『鋳田籠』

ちゅうたるう

県内初 南島原市発注工事で採用

あすから2日間、建設技術フェアで披露

(一社) 鋳田籠工法協会
(山口県防府市、代表理事
|| 松村憲吾・アボンコーポ
レーション社長) が扱つ、
くさび連結式のパネル枠工
法『鋳田籠(ちゅうたるう)』
が県内で初めて、南島原市
発注の普通河川貝森川災害
復旧工事に採用された(一
写真)。これまでに、国土
交通省のNETIS(登録
番号CG-990046-
V)に登録。2012年度
に活用促進技術に選定され
ており、効率的でECOな
土木建築製品として期待が
寄せられている。



全国的には実績件数が3
11件(国18件・他の自治
体291件・民間2件)と
多いものの、九州では現在
のところ知名度が低く、福
岡県太宰府市が発注した道
路法面補修工事に次ぎ、南
島原市が2例目。九州支部
の事務局となつている(株力
多)

区、黒山雅夫社長)が自治
体やコンサルタント会社を
中心に普及活動に注力。ほ
か、NERCが主催する建
設技術フェアにも昨年から
出展するなど、積極的なP
R活動を展開している。

『鋳田籠』は、ダクタイ
ル鋳鉄製の格子状パネルを
同じ素材のくさびで連結
し、枠体を形成。この中に
石やコンクリートの再生材
などを詰めて使用。主に河
川の護岸工や根固工、護床
工に使用され、増水時の洗
掘などを防ぐ役割を發揮。

い鋳鉄枠を用いることで鋳
鉄に含まれる鉄分やミネラ
ルが水生生物の生態系をも
豊かにし、多種多様な生物
が生息できる空間を作りま
す。自然と調和した景観を
残すことで川を安全に、あ
るがままの姿でも残す『多
自然川づくり』を目的とし
ています。鋳鉄は一般的に
は馴染みがありませんが、
この機会に会場に足を運ば
れてください」と話した。

また、土留工や谷止工など
にも使用され、土砂災害を
防ぐ役割も果たすという。

『鋳田籠』は、軽く
て錆びないポリエステル1
00%の樹脂製亀甲網『高
耐久STKネット』ととも
に、10月5、6日に福岡市
で開かれた九州建設技術フ
ォーラムにも出展された。

くさび連結式のパネル枠
工法『鋳田籠(ちゅうたる
う)』に関する問い合わせ
は、(株力多)095
7・56・9703(まで)。

大幅な工期短縮と
コスト削減が可能

コスト削減が可能

主な特徴としては▽組み
立てが簡単で施工が早い

力多)095
7・56・9703(まで)。